

非正規雇用フォーラム・福岡



ストップ！貧困の連鎖

～若者の貧困と奨学金制度の改善に向けて～

中京大学大内裕和教授講演会開催

12月2日天神・都久志会館で、大内裕和中京大学国際教養学部教授の講演会を開催しました。開会にあたり共同代表の服部弁護士はあいさつの中で、「一部企業の金儲けのために政治が動き、奨学金制度は将来を担う学生への金貸しの制度になっている。そして、卒業後には非正規雇用労働者をつくりだしている。安倍政権ではこのような現状を打破できない。これからの日本をどうすべきか、私たちの運動に対する確信と勇気を与えてほしい。」と述べました。講演の概要は次の通りです。

■「ブラック企業」のバイト版が「ブラックバイト」■

授業演習でゼミ合宿を年1回行ってきた。7週間前日程を決め、学生の予定に私の予定を合わせて実施するのである。ところが、2000年に入って日程調整がきかなくなった。バイトのシフトが2か月以上前に決まるところ、また、1週間前に決まるところがある。さらに、曜日固定制のバイトがあって、どんな理由があっても休めない。このような状況が起って、ゼミ合宿が実施困難になった。

これはゼミ合宿だけの話にとどまらない。バイトに合わせて授業時間の調整までしなければならない状況にもなっている。学生たちは試験前・試験中に勉強できないと悲鳴をあげている。やる気があって、この状況を何とかしたいと相談に来た学生が、「バイトを休めない。」「授業に出られない。」「試験が受けられず進級できない。」「就職試験の面接にも行けない。」と言った。

そんな学生たちにアルバイトについて文章を書いてもらい、その調査結果をフェイスブックにのせたところ、全国から大きな反響があった。そこで、「ブラック企業」のバイト版として問題の本質を明らかにするために「ブラックバイト」と名付けた。昔は、バイトが学生生活を圧迫することはなかった。今、バイトは学生生活を圧迫している。賃金や残業代の未払い、有給休暇の取得不可、辞めたくても辞めさせてもらえない等々「労働法」

違反は頻発し、学生の意向を無視してシフトは組まれ、生活費を稼ぐためにバイトを最優先せざるを得ず、学業が成り立たなくなっているのだ。

■貧困問題と「ブラック企業」問題は深く関わる ■

1990年代から貧困は拡大した。しかし、深刻化しても表面に現れなかった。2000年代からやっと貧困問題が明らかになってきた。2008年末の年越し派遣村への反響は大きく、政権交代の原動力になった。しかし、派遣法の抜本改正をはじめ問題は解決されないまま、自民党政権に戻ってしまった。そして、生活を担う人に非正規雇用労働者が増加し、貧困問題が社会問題として取り上げられるようになっていくのである。

正規雇用労働者が「ブラック企業」問題を考えないといけない。「ブラックバイト」は「ブラック企業」の前段階であり、「ブラックバイト」をしていた学生は「ブラック企業」に就職しても労働条件に何の疑問を持たずに働き続けるからである。「ブラックバイト」は学生であることを尊重しないアルバイトのことだが、フリーターの増加や非正規雇用労働者の基幹化がすすむ中で登場し、低賃金であるにもかかわらず正規雇用労働者並みの義務やノルマが課され、学生生活に支障をきたす重労働を強いられることが多い。

■300円の学食さえ利用できないほど深刻！■

どうしてこのような働き方に巻き込まれるのか。若い人たちの生活で何が起きているかがわからないと見えない。

最近の相談事例をあげてみる。家庭教師の企業では、辞めたいといったら賠償金50万円を要求された。コンビニではノルマを課され、達成できなかった分の買い取りさせられた。ブランド商品を店頭販売するアパレルでは、商品を自己負担で制服として着なければならず、毎月買い取りさせられて4か月間賃金不払いが続いたという。

マスコミは、そんなバイトなら辞めればいいじゃないかという。若者たちの気持ちがまったく分かっていない。辞められるなら「ブラックバイト」ではない。辞められないのは、学生の貧困が深刻だからだ。300円の学校食堂でさえ利用者がいない。1日平均850円的生活費では利用できるはずがない。働かないと生活できないのだ。昔は、親が支えていた。今は、バイトで生活費を稼いでいる。かつての学生より今の学生は貧しいということを知ってほしい。

■奨学金の問題は全世代の問題となった ■

まともでない政権が奨学金制度を悪化させている。1984年に有利子枠が創設され、2007年以降には民間資金が導入され、2012年の実績では有利子奨学金を借りている学生が圧倒的に多い状況である。無利子奨学金枠が少ないからだ。そして、奨学金返済が困難という問題が起きている。海外では奨学金は給付が当たり前で、借りるものを奨学金と呼んでいるのは日本だけだ。学生の53%が奨学金を利用しているが、返さなければ延滞金がつく。返済が困難になれば半永久的に返し続けることになる。借りた金の5倍も払い続けなければならないという奨学金制度があってよいものか。

学生の将来を考えると、自分の奨学金が500万円、結婚相手の奨学金が800万円だと、合計1300万円の借金を抱えることになる。そして、自分たちの返済が終わらないうちに自分の子どもの奨学金を借りる事態も起こる。奨学金を借りるのは若い人だが、本人が返せなくて親が返したり、孫の奨学金を祖父母が年金で支

払い始めたりするという事態も始まっている。

ブラックバイトユニオンが立ち上がり、ブラックバイト専門の弁護士団も結成した。出前講座を行い、リーフレットも配布し、これらの運動の成果として全国レベルでの署名を300万筆集約できた。来年の通常国会までに「給付型奨学金制度の創設を求めるアピール」賛同書を集め、よりよい奨学金制度の実現をめざしていきたい。

■非正規雇用を課題とする社会的労働運動が必要 ■

昔、非正規雇用労働は補助労働であった。しかし今、非正規雇用労働が基幹労働になっている。非正規雇用が正規雇用の役割を担って、学生バイトもパートも基幹労働になっている。5年以上前から問題はあったが、「ブラックバイト」と言い出して問題化されるようになった。連勤（連続勤務）自慢、睡眠不足自慢、掛け持ち自慢…この自虐の風潮が今の学生の状況だ。労働者の権利などない。「ブラックバイト」を問題にする学生が少数なのは、「イヤと思うことをイヤだと言えない風潮」「イヤだという感覚自体の搾取」があるからだ。このような状況の中で学生たちは運動体の集会などには参加できないし、ましてや社会や政治の問題も理解できない。そして、運動体もこれが学生のノーマルな状況だと理解できないと事態を変えていくことなどできない。

言葉をつくって広めないといけない。コトの重要性に比べて知られていないことが問題なのだ。知られていなければ解決につながらない。友人に伝え、新聞に投書し、フェイスブックにアップするなど広めていこう。

さらに、労働市場の非正規化により、正規雇用と非正規雇用の分断支配が行われている。これを何とかしないと日本の社会も終わりだ。そのために急がれるのが最低賃金を1000円にすることだ。賃金が300万円を割れては自治体が存在しなくなる。若い人が非正規雇用では社会の再生産は困難だからだ。再生産不可能社会を変えることが最大の課題となっている。これを実現するためには社会的労働運動と職場の組織化をつなげることが重要となる。非正規雇用を課題とする社会的労働運動をつくりだすことが必要なのだ。社会的労働運動を起こし、最低限の所得保障と社会保障を実現するとりくみをすすめていこう。

課題を共有してともに頑張ろう

閉会のあいさつを共同代表の勝山吉章福岡大学教授が行い、「主権者としての教育が重要になっている。奨学金を民間企業に出させることも考えられる。社会貢献している企業から商品を買う、その企業を応援するという運動もあり得る。これだけの参加者が集まり、課題を共有できた。これから力を合わせて頑張ろう。」と結びました。

講演を受けての感想・意見をご紹介します。

多くの方から「講演は大変わかり易く参考になった」との回答をいただき、「自分から動き始めなければ！」との思いが共有できた会となりました。ありがとうございました。

30歳代

- ・自分のやるべき運動がよくわかった。常日頃の生活を支える本当に実効果のある運動や仕事がしたいと考えていたが何をしていくべきかがよく分かった。
- ・「奨学金は世代問題」「現状、実態を知らないことには肝心なところ、問題点がわからない」ということがすごく印象に残った。問題と問題を認識しないことには変わっていかない。これは「おかしいことはおかしい」と声をあげ広げていくことが大切と思う。私自身の認識も変わった。本当に有意義な2時間になった。
- ・奨学金が日本社会にこれだけ影響しているとは思わなかった。ブラックバイトに関しては私も学生時代に失敗して自己負担したことがある。子どものためにも真剣に考える。

40歳代

- ・高校の組合専従役員をしている。組織が見る間に減少している今日だ。展望が見えた。少し先が見えた。部活や働き方を変えなければ…。ファイトが出た。でもボチボチやる。でも力強く！
- ・有利子奨学金受給者の急増、奨学金返済の困難→ブラックバイトを辞められない現状がよく理解できた。最賃1,000円に向けての実現。
- ・とにかく目を見開かされた。明日からの運動の方向を教えられた。周りの人に伝える。

50歳代

- ・若者の貧困について考えさせられた。若者層の非正規化を止められなかった労働組合の責任の大きさ。自分の職場も非正規の方がたくさんいる。もっとも話をしても働き方を変えていけるようにしていきたいと思った。
- ・世代間の認識の違いを知ることが一番急がれると思う。安易に生徒に奨学金をすすめていたので、まず周囲に(40歳代以上)理解をひろげ、来年度の奨学金説明会の資料から作り変える。その前に、給付型を実現して説明会で借金総額の話をしなくていいようにしたい。
- ・とても学習になった。データ、若者の現実を客観的に知って、自分たちが今から運動に何をとり入れていくべきかを考えることができ良かった。ともに頑張っていきたい。
- ・若者の貧困の実態が想像を上回っていて驚いた。ブラックバイトの根源が学生バイトが基幹の労働になっていること、正社員がいないことにあることを再確認できた。

60歳代

- ・奨学金の問題が大きな規模になっていることが改めてわかった。労働の質も変わってきており、子どもを搾取する社会に未来はないと思った。最賃1,000円の処方箋はすごく分かり易かった。
- ・大学生の現実を知りビックリした。貧困化が大きく広がっているのですね。労働運動にかかわってきたが、今の組合運動のお粗末さに失望させられるが、私たちが後継者をつくってこなかったことも反省させられた。
- ・経済(貧困状態)の連鎖がよくわかった。奨学金問題は課題と思っていたが、危機的状況にあることが理解できた。
- ・明快な語り口と論点、近年の学生バイトの基幹労働化を許す政治の貧困を痛感、社会構造の変革が政治の課題、雇用形態の改善なくして持続可能な社会を展望することはできないことを改めて思い知る、奨学金返済が貧困の元凶となっている現状を理解。
- ・若者の実態を知ること、労働運動・社会運動との関連の大切さが印象に残った。
- ・ブラックバイトがブラック企業と同じ地盤であること、そして学生の貧困の深刻さがよくわかったので、自分ができることを考えたい。
- ・今日の奨学金制度の実態を知り唖然とした。また若者の貧困のひとつに現在の奨学金問題があることも知った。

2017年年頭のごあいさつ

共同代表 落石俊則

会員のみなさま明けましておめでとうございます。

昨年秋の臨時国会は、国民の多くが反対、慎重審議を求める中「TPP承認・関連法案」をはじめ「年金カット方案」「カジノ解禁法案」などが、与党の数のおごりにより強行採決されました。今年は、日本国憲法の施行70年を迎えます。危険な政治の流れにストップをかけ、立憲主義を取り戻すためにも、北九州市議会選挙をはじめとした自治体議員選挙、そして解散総選挙に勝利をしなければなりません。

過労自殺や非正規労働者の貧困など、働き方をめぐる様々な問題が深刻となる中、安倍政権は「働き方改革実現会議」を昨年9月立ち上げ、非正規雇用労働者の処遇改善（同一労働同一賃金）や長時間労働の是正、若者・女性が活躍しやすい環境など9項目を課題としてあげています。これらの課題を解決することは私たちの望むことですが、「積極的平和主義」と同様、安倍政権の政策には落とし穴があることを警戒しなければなりません。長時間労働の是正と言いながら国会には、労働時間規制を適用除外することが可能な労基法一部改正案が提出されたままであり、解雇の金銭解決方式の検討も行われ、働き方改革をうたいながら労働者の権利規制が一方で進められています。「非正規雇用フォーラム・福岡」は、本年も労働法制に関わる学習会や働く者の実態把握と検証を行いながら、一人ひとりが人間らしく働き続ける社会の実現のため、働く者の権利を奪う労働分野の規制緩和に反対し労働者保護ルールを守り抜く運動を広く粘り強く展開していきます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

公示日:2017年1月20日(金)／投開票日:1月29日(日)

2017年 北九州市議会議員選挙 予定候補者

私たちの活動に協力していただいている候補者のみなさんです。是非応援してください。
必ず投票に行きましょう。



門司区
福島 司
ふくしま つかさ
(現職6期目)



小倉北区
ずいき 圭子
ずいき けいこ
(新人)



小倉南区
森本 由美
もりもと ゆみ
(社民党現職5期目)



八幡西区
村上 さとこ
むらかみ さとこ
(新人)



2017年3月 那珂川町議選挙 立候補予定
はら 和弘さん 2期目へ挑戦します。
非正規フォーラムの会員です。是非応援してください。